

114
A4245



補助金或ハ扶助金ノ学校ニ於ル目今欧米
各國ニ行ハル、所ヲ以テ之ヲ觀ルニ或ハ其前
数年ノ事業ヲ通計ニ或ハ前年ノ考課ヲ
檢査シ其勤怠進否ニ因テ其成否所ノ事業
考課ヲ審ニシ果シテ幾何ノ公益ヲ起シ以テ
幾何ノ價ニ充ツキヤヲ認取シテ之ニ其資ヲ
給タル類是學校補助金ノ通例ナリ
然レニ欧米各國ノ如キハ文明ノ實理人民ニ
浹治スルヲ以テ其學校多クハ各個ノ私立ニ
非サレハ則チ衆人ノ共立ニ成ルモノナリ故ニ其

支那省

大正十一年四月
陸軍省
贈

1222



資金官ヨリ出スモノ極メテ寡ク只其名個積
ム所ノ子金ト事業ヨリ獲ル所ノ俸財トシ以
テ年々ノ經費ニ供ス是ヲ以テ学校ノ隆替ハ
敢テ政府ノ興廢ニ関セサル者アリ或ハ其國ニ擾
乱戦争等ノ事アルモ尚且学校ノ生徒ハ曰ニ
依テ業ヲ修メ毫モ其歩ヲ退ケサルモノアリ其
法タル此ノ如クナルハ人民未タ必シモ補助金ニ倚
賴スルヲ待タス我國ノ如キハ此ニ異ナリ人民貧
弱自立スヘキノ私産ヲ有スルモノ稀ニシテ併セテ
自己ノ技藝ニ拙ク且數百年來鄙屈ニ習慣

シテ活潑奮興ノ氣象ニ乏シク教育ノ事ハ
舉テ之ヲ政府ノ務ニ歸シテ顧ミサルノ^状況アリ
此ノ如キ人民ノ度ヲ以テ今處カニ欧米各國ノ良
法ニ倣ハシテ欲スト雖モ亦得ヘカラスルナリ
是ニ於テ暫ク實地ノ形勢ト人民ノ品位トヲ斟酌
シ其度ニ隨テ学校補助ノ方法ヲ施行スルニ或
ハ一步ヲ退ケサル可ラサルモノアリ既ニ一步ヲ退クル
ハ補助ト事業トヲ平準シテ之ヲ調スルニ
約束ノ法ヲ以テセシハアル可ラス
其約束ノ法ハ如何ノ金ヲ以テ幾年間何科

生徒名ヲ成業セシムヘキノ條款ヲ定メ教員或ハ属員ノ多寡書器ノ採集校舍ノ修繕等ニ至ルマテ盡ク之ヲ其主者ニ委任シ官ニ於テハ只生徒成業ノ度ト其時間ノ遅速ヲ照管スルノ一法アルノミ是固ヨリ学校補助金ノ約束法タリト雖尚且現今ニ行フ能ハサル者アリ故ニ其中ニ就テ更ニ又一步ヲ退ケサル可ラス何トナレバ今日学校ノ經費其資本トスヘキモノ多カラサルノミナラス此資本ヲ委任シテ顧慮スルノ人物モ亦殆ど乏レバナリ故ヲ以テ眼前ノ状況ニ

就テ学校ノ實際ヲ量リ其本旨ニ戾ラズ其同途ヲ妨ケス人民習慣ノ陋ヲ変スヘキ手段トテ實ト相背馳セサルヲ要シ以テ他日必ス自立ヲ得ベキノ道ニ從テ適宜ノ處置ヲ設ケサル可ク故ニ期ヲ刻シテ其計算ヲ査覈シ又支消ノ分類ヲ檢閲シ其年限ヲ定メテ之ヲ補助シ其属員ノ増減ヨリ書器等ノ交換流用ニ至ルマテ一切舉ゲテ其学校ノ便宜ニ委タルハ是學校補助金ノ施行法ナリ
抑此学校補助金ハ決シテ永世ヲ期スルモノニ

非ス故ニ其施行法モ亦決ヒテ不易ノ制ヲ立ルニ
非ス既ニ不易ノ制ヲ立ルニ非シテ又永世ヲ期ス
ルノモノニ非サレハ是固ヨリ文部將來ノ標準
トスル所ニ非ス然リト雖其一時此法ニ據ラサル
コトヲ得サル者ハ則今日ノ妨ナリ
故ニ先ツ期スルニ七年ヲ以テ之ヲ補助シ期滿
ルニ至ラハ更ニ其実況ニ照シテ議定スル所ア
ラントス今補助金ノ施行ハ一時不得已ニ出ル
ノ假法ナリ他日必獨立シテ其資ヲ官帑ニ仰
サルノ期ニ際セントスルハ固ヨリ深ク慮及ル所

ナリ今試ニ其實際ヲ直轄學校ニ求テ之ヲ處分
スレハ生徒ノ謝金或ハ寄附納

等ヲ以テ學校資金ノ本位トスベシ此
ノ如キハ官ヨリ出タス所ノ資金ハ其用本位ニ似
タリト雖其実補助ニ背カスシテ他日獨立ノ
目的ヲ遂クルニ外ナラス然ラハ則豈他ノ院有寮
使等ト同視スルノ理アラヤ也ル所以ノモノハ
資金ノ用法貸賦ノ収集屬員ノ任委等其
趣一トシテ院省寮使ト均シキモノ無キヲ以テ
知ルベキナリ

今乃一朝ニシテ各廳衙ト曰シク毎年ノ豫算
ヲ以テ定額ヲ附托シ期年ニ於テ残餘ヲ還付
シ收入金ヲ納付シ補助ノ名義ヲ除リニ至ラハ
學校何ノ時カ官ノ補助ヲ免レテ獨立保存ノ
日ニ際スルヲ得シヤ必應ニ學校ノ真面目ヲ壞
敗シ他ノ院省寮使ト其歸趨ヲ同スルニ至ル
ヘシ果シテ然ラハ將來若シ政府定額ノ減少
スルヲアテハ學校ノ補助金モ亦随テ減サスベク
焉グ維持保續シテ以テ獨立ヲ他日ニ圖ルノ計
ト謂ベケシヤ唯是ノミナラズシテ一朝遽カニ財源ノ

梗塞スルニ會サハ駭々長進ノ生徒モ其業半
途ニシテ放下セサル可ラス聘傭於期ルノ教
師モ償金ヲ出シテ解聘セサル可ラス此ノ如キハ
甚教育ト財用トヲ傷耗スル豈淺鮮ナリシヤ
學校補助金ノ院省寮使ノ經費金ト曰視
スヘカラスト云フニ至テハ或ハ疑議ヲ素ク免レス
ト雖能ク實際ニ着眼スルハ疑議立地ニ冰
解スベシ今政府果シテ其異趣ナル所以ノ故
ヲ尋釋シ敢テ各廳衙ト一様ノ着ヲ作ラズ
他日純然タル學校ノ真面目ヲ得セシムルノ計ヲ

以テ此措置ヲ再議シ其餘金ハ期年ニシテ還
付スルニ及ハス。収入金ハ納付セサランヲ評定ス
ラン。切ニ企望スル所ナリ